

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部診療放射線学科

名前 北間 正崇

作成日 2024年2月26日

【責任】

- ・保健医療学部診療放射線学科に所属し、国家試験科目でもある医用工学を中心とした講義、演習、実験の5科目に加え、1年生の導入科目でもあるフレッシュマンセミナー、4年生の医療安全管理学、総合演習Ⅰ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究を担当している。また臨床工学科の科目として医用治療機器学を担当している。2023年度からクラス担任として診療放射線技師国家試験の合格に向けて4年間の学習計画策定を含めた学生指導を行っている。
- ・大学院医療技術学専攻修士課程にて、医用工学関連の科目を担当すると共に研究指導を行っている。
- ・環境マネジメント推進委員会委員として大学全体の環境活動の拡充に努めている。
- ・入試関連業務としての高校訪問、就職関連業務としての企業開拓を継続的に実施している。

【理念】

診療放射線学科では診療放射線技師としての基本業務のみならず、患者の気持ちに立って考えて対応できる医療人の育成を目的としている。大学で学んだ知識を臨床現場で役立てることができるのは基本であるが、日進月歩の医療機器に対応するためには常に学び続ける力が必要となる。そのためには基礎知識の習得のみならず、活用する力を実践的に学んでもらう。同時に人間形成の一端として社会人（医療人）に必要な基本ルールを踏まえたコミュニケーション力を身に付けることで患者への対応や適切な能力評価が受けられるようにしなければならない。講義だけではなく、学生生活の様々な場面で社会における診療放射線技師の役割を伝えることにより就職に向けた意識を醸成できるように教育指導していく。これにより、大学での学びが単なる知識だけではなく、就職先で活かすことができたときに感じる喜びと楽しさを感じてもらい、更に向学意欲が高まることを期待して教育する。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、以下に示す3つの方針「基礎理解力の深化と実践力の強化」、「社会人として求められるコミュニケーション能力の強化」、「将来目標を見据えた学生生活の実現」に基づき教育を実践している。

方針1「基礎理解力の深化と実践力の強化」

- ・電気物理の基礎的理解には視覚に訴える教材が有効と考えており必要に応じてアニメーションなどを用いている。（講義資料 参照）
- ・自らまとめる力を付けさせるために資料配布は最低限にし、講義ノートを作成させている。
- ・1年次科目においては学習習慣の身につけていない学生も多いことから、頻回の実力チェックを実施し、その状況をフィードバックする。
- ・演習科目では個人の理解だけではなく、少人数グループでのディスカッションを行うと共に小テストにより講義の振り返りを行うことで理解を深めている。（講義資料 参照）
- ・実験科目ではシンプルな実験結果から次へのステップを自分たちで考えて実践する形式を導入している。（実験資料ならびにレポート 参照）
- ・大学院生の学会発表は内容と個人のレベルに合わせて段階的に進めている。（学会発表要旨 参照）

方針2「社会人として通用するコミュニケーション能力の強化」

- ・臨床実習指導では患者接遇を意識した指導を実施している。（実習指導要領 参照）
- ・提出物のフォーマットや提出締め切りを厳守させ、評価にも反映させている。（レポート参照）
- ・就職のための面接指導を繰り返し行う中で接遇を学んでもらう。

方針3「将来目標を見据えた学生生活の実現」

- ・職業と講義内容を関連付けた説明を重視している。
- ・国家試験対策では模擬試験後にゼミ内での振り返りを行い、不得意分野を洗い出して次につなげるよう工夫している。
- ・就職意欲啓発のため企業等説明会を開催すると共に情報提供を行っている。

【成果・評価】

教育活動の成果として、単独で担当している科目においては授業評価アンケートで9割以上の学生から高い評価を得ている。また2017年には本学ベストティーチャー賞を受賞した。国家試験指導においては関連科目の指導やゼミ生への対応を実施しており、毎年、高い合格率を実現している。ゼミ学生の就職については企業や医療機関共に全員が希望の職種に内定を得ている。近年の大学院生指導においては2021年度に1名の博士後期課程学生、2022年度に2名の修士学生を輩出した。

【目標】

短期目：

- ・国家試験出題基準の変更にともない医用工学、基礎医用工学の講義内容を再構築する。（2024）
- ・医用工学実験で担当する項目の教材を再構築する。（2024）
- ・フレッシュマンセミナーにて就業意識を高める講座や説明会を実施する。（2024）

長期目標：

- ・臨床現場でも研究に携わることが出来るよう高い研究意識を持った学生を多く輩出する。
- ・就職支援センターと連携した企業セミナーへの誘導を実施する。